

兵庫教育大学 教職大学院

『教育実践高度化専攻』

国際貢献型留学生用

教育方法・生徒指導マネジメントコース
言語系教科マネジメントコース
社会系教科マネジメントコース
理数系教科マネジメントコース
グローバル化推進教育リーダーコース

実 習 基 本 計 画

令和 7 年 4 月

目 次

実習生としての心得

実習の基本計画（国際貢献型留学生）

1	実習の目的	1
2	実習科目	1
3	実習校（連携協力校）	2
4	科目別の実習内容、指導体制、評価方法等	2
5	実習資料の様式	6
	各コースにおけるカリキュラム配置モデル（国際貢献型留学生）	34

実習生としての心得

【 実習に対して 】

1. 身だしなみと言動

- ・服装や髪型は、幼児、児童・生徒への影響を考え、教師をめざす実習生らしいものとする。
- ・乱暴な言葉使いや粗暴な態度はしないこと。

2. 意欲と態度

- ・実習期間中は、熱意をもって意欲的な態度で取り組むこと。

3. 専念

- ・実習期間中は実習に専念し、部活動やアルバイト等を行わないこと。

4. 指導教員からの指導や助言

- ・実習先の指導教員からの指導や助言、忠告に対しては、快くこれを受け入れること。

5. 健康管理

- ・健康には十分留意し、節度ある生活を行うこと。

6. 時間管理

- ・出勤時刻や提出物の期限等は、必ず厳守すること。

7. 守秘義務

- ・実習を通じて知り得た情報は、SNSを含め絶対に外部に漏らさないこと。

8. 喫煙

- ・実習先では喫煙しないこと。

【幼児、児童・生徒に対して】

1. 態度

- ・ 幼児、児童・生徒の前では実習生間の私的な会話を慎み、絶えず教育者としての態度で接すること。

2. 私的な交流

- ・ 幼児、児童・生徒との私的な交流（SNS、電話、メール、自宅への訪問、物品等の受け渡し等）はしないこと。

3. 体罰や暴言

- ・ 幼児、児童・生徒への体罰や暴言は絶対にしないこと。

4. 健康管理や安全指導

- ・ 幼児、児童・生徒への健康管理や安全指導に特に留意すること。

5. 実習先以外での接触

- ・ 実習先の指導教員の許可なく、実習先の外へ幼児、児童・生徒を引率したり、呼び出したりしないこと。

【実習校に対して】

1. 実習時間

- ・ 実習の開始時間や終了時間は、実習先の勤務時間や勤務形態に合わせて行うこと。

2. 病気等による欠席

- ・ 無断欠席は絶対にしないこと。
- ・ 病気等により、やむを得ず欠席する場合は、速やかに実習先の指導教員に必ず連絡すること。

3. 物品等の使用

- ・ 実習先の許可を得て使用し、使用後は責任をもって後片付けをすること。
- ・ 実習先のパソコンを使用させてもらう場合は、ウィルス感染防止のため、勝手に私物の USB メモリ等を接続しないこと。

4. 書類等の持ち出し

- ・ 実習先の許可を得ずに、書類や物品等を実習先の外に持ち出さないこと。

実習の基本計画（国際貢献型留学生）

1 実習の目的

実習科目を履修することにより、日本の学校教育に関する基礎的・基本的な知識を修得する。特に、日本の学校教育における学習指導や生徒指導等に関し、理論に基づく実践的方法・技術等の実際を学び、実践的知識と技能を身につけるとともに、母国等において、日本の学校教育における学習指導や生徒指導の理論や実践を還元できる高度な資質・能力を備えた教員の育成を目的とする。

2 実習科目

実習科目は、以下の2科目である。科目名、単位数（時間数）、実施時期は以下のとおりである。

実習科目	単位数（時間数）	配当年次
学校体験・基盤実習	6 単位（180 時間）	1 年次後期または 2 年次
学校教育実践実習	4 単位（120 時間）	2 年次

実習の実施時期

実 習 科 目	実 施 時 期
学校体験・基盤実習	1 年次後期に週 4 日（月曜日～木曜日／1 日 7.5 時間）の実習を 6 週間（集中 180 時間）実施することを原則とし、実習期間中は週 1 日（金曜日／1 日 4 時間）のリフレクションを大学で行うことを原則とする。 なお、実習校の事情等によって、週 5 日で実習を行うなど、実情等に応じて実施する。
学校教育実践実習	2 年次に週 4 日（月曜日～木曜日／1 日 7.5 時間）の実習を 4 週間（集中 120 時間）実施することを原則とし、実習期間中は週 1 日（金曜日／1 日 4 時間）のリフレクションを大学で行うことを原則とする。 なお、実習校の事情等によって、週 5 日で実習を行うなど、実情等に応じて実施する。

※ 実施時期については、上記を原則とするが、実習先の事情等に応じて柔軟に対応する。

3 実習校（連携協力校）

連携協力校（附属学校園含む。）において実習を行う。

（※ なお、留学生が実習校へ通う手段等を考慮し、留学生が居住する場所に近い学校を選定する必要があることに留意する。）

4 科目別の実習内容、指導体制、評価方法等

学校体験・基盤実習

（実習内容）

原則として、前半（3週間）は附属学校園において実習を行い、幼稚園、小学校及び中学校における教育の実際について、見学及び参加を通して日本の学校教育に関する基礎的・基本的な知識を修得する。また、日本と母国の学校現場の比較や学習指導や生徒指導がどのように行われているかを観察する。

また、後半（3週間）は連携協力校において実習を行い、実習校における様々な教育活動に参加することで、日本の学校教育現場における実践的課題となっている事柄について把握し、日本の学校における教員がどのように学習指導や生徒指導を行っているのか等について体験的に学修する。実習校指導教員（メンター）のシャドーイングを中心に実習を進めることを原則とする。

（指導計画・体制）

- 附属学校園において行う実習については、大学指導教員が助言・指導し、学校体験・基盤実習の目標（附属学校園）を策定する。
- 実習計画の作成・実施にあたっては、大学指導教員が助言・指導し、力量向上に資する目標とスケジュールを策定する。
- 実習校に「実習校指導教員（メンター）」を依頼する。
- 実習にあたっては、上記の大学指導教員と実習校指導教員（メンター）が緊密に連携して、実習校の実情に即した実践研究がなされるよう、学生に助言・指導する。
- 学卒院生については、週に一度、大学指導教員と実習に関する省察を行う。
- 大学指導教員は、定期的に実習先を訪問し、実習校指導教員（メンター）と協議しながら、大学院生を指導する。

（実習の概要）

（1）個別計画の作成準備

- ① 実習における学修目標や課題、体験の内容等を明確化する。
- ② 実習校の現状を把握・理解する。

（2）実習時期・内容の決定（附属学校園において行う実習を除く。）

- ① 入学年の9月までに、大学院生は大学指導教員と学校教育実践実習と併せて実習時期・内容について打合せを行う。

- ② 入学年の 10 月までに、大学指導教員は実習校に出向き、実習時期・内容の説明を行い、受入の了承を得る。

※実習校との打合せの日時、実習時期の決定については、実習校のスケジュールを最優先すること。

- ③ 実習開始の 1 か月前までに、大学院生と大学指導教員は、実習校に出向き、実習時期・内容を決定する。

(3) 附属学校園において行う実習に関する諸資料について

① 附属学校園実習日誌 [様式 (1)]

- ・大学院生は、実習開始日までに様式 (1) の実習日誌のうち「学校体験・基盤実習の目標 (附属学校園)」を記入する。
- ・大学院生は、様式 (1) の実習計画表、実習日誌を毎日記入する。
- ・附属学校園での実習終了後、1 週間以内に、実習日誌 (データ) をコースの修学指導教員にメールにより提出する。

※実習日誌 (データ) は、実習開始日までに、教育実習総合センターから大学院生にメールにより送付する。

② 出席簿

- ・大学院生は、出席日には必ず出席簿に押印 (またはサイン) すること。

※出席簿は教育実習総合センターで作成し、実習開始日までに教育実習総合センターから附属学校園に送付する。

また、実習終了後、教育実習総合センターは附属学校園から出席簿を預かり、修学指導教員へ送付する。

(4) 連携協力校において行う実習に関する諸資料について

① 実習計画 [様式 (2) - ①]

- ・大学院生は大学指導教員の指導を受け、様式 (2) - ①を作成する。

② 実習日誌・出席簿 [様式 (3) - ①]

- ・大学院生は、様式 (3) - ①の実習日誌を毎日記入する。ただし、最終日については、実習日誌と合わせて様式 (3) - ③も記入し、実習校指導教員 (メンター) による指導助言及び大学指導教員のコメントをそれぞれ記入してもらう。
- ・実習校指導教員 (メンター) 等からの指導内容を記録した場合は、その内容について実習校指導教員 (メンター) 等の確認を受け、指導・修正事項があれば、院生が赤で記入する。
- ・大学指導教員の訪問指導を受けた場合は、教員の名前と指導内容を記録する。
- ・大学院生は、出席簿を作成し、出席日には必ず押印 (またはサイン) すること。

③ 評価票 [様式 (4) - ①]

- ・実習校指導教員 (メンター) 及び大学指導教員は、様式 (4) - ①により、大学院生の実習の成果を評価する。
- ・大学指導教員は、評価項目毎に評価する際、附属学校園での「実習態度」及び「実習日誌」の状況を加味して総合的に評価する。

(5) 連携協力校において行う実習に関する諸資料の提出について

実習に関する諸資料の提出先と提出時期は、次のとおりである。

① 実習計画書

実習校と大学指導教員：実習1週間前

② 実習日誌

大学指導教員：実習後すみやかに

③ 出席簿

大学指導教員：実習後すみやかに

(評価方法)

実習校指導教員（メンター）による成績評価と大学指導教員の評価を合わせ、最終的にはSからFの5段階で総合的に評価する。

S（90点～100点）、A（80点～89点）、B（70点～79点）、C（60点～69点）、F（59点以下）とし、SからCまでを合格、Fを不合格とする。

評価項目については、評価票〔様式（4）－①〕を参照。

学校教育実践実習

(実習内容)

原則として、学校体験・基盤実習で後半（3週間）の実習を行った連携協力校において実習を行う。

コースの課題研究的科目における研究内容と、実習校の研究テーマや実習校で指導可能なテーマとのマッチングを行った上で、実習校における教育実践に関する観察、記録を行うことによって、日本の学校がどのように教育課題に取り組んでいるのか、その方策を理解し、自らの実践力を高めるとともに、研究テーマに即した教育方法・教育内容の開発及び評価の力量を形成し、母国等での教育改善への示唆を得る。

(指導計画・体制)

- 大学指導教員、実習校の管理職、実習校指導教員（メンター）が緊密に連携して実習を進める。
- 各担当の学生について、上記の三者が協力し、実習開始前に個別計画の作成を指導し、実習終了後に成果の評価を行う。
- 大学指導教員は、定期的に実習先を訪問し、実習校指導教員（メンター）と協議しながら、大学院生を指導する。
- 学卒院生については、週に一度、大学指導教員と実習に関する省察を行う。

(実習の概要)

(1) 個別計画の作成準備

- ① 実習における学修目標や課題、体験の内容等を明確化する。
- ② 実習校の現状を把握・理解する。

(2) 実習時期・内容の決定

① 入学年の9月までに、大学院生は大学指導教員と学校体験・基盤実習と併せて実習時期・内容について打合せを行う。

① 入学年の10月までに、大学指導教員は実習校に出向き、実習時期・内容の説明を行い、受入の了承を得る。

※実習校との打合せの日時、実習時期の決定については、実習校のスケジュールを最優先すること。

② 実習開始の1か月前までに、大学院生と大学指導教員は、実習校に出向き、実習時期・内容を決定する。

(3) 実習に関する諸資料について

① 実習計画 [様式(2)－②]

・大学院生は大学指導教員の指導を受け、様式(2)－②を作成する。

② 実習日誌・出席簿 [様式(3)－②]

・大学院生は、様式(3)－②の実習日誌を毎日記入する。ただし、最終日については、実習日誌と合わせて様式(3)－③も記入し、実習校指導教員(メンター)による指導助言及び大学指導教員のコメントをそれぞれ記入してもらう。

・実習校指導教員(メンター)等からの指導内容を記録した場合は、その内容について実習校指導教員(メンター)等の確認を受け、指導・修正事項があれば、院生が赤で記入する。

・大学指導教員の訪問指導を受けた場合は、教員の名前と指導内容を記録する。

・大学院生は、出席簿を作成し、出席日には必ず押印(またはサイン)すること。

③ 評価票 [様式(4)－②]

・実習校指導教員(メンター)及び大学指導教員は、様式(4)－②により、大学院生の実習の成果を評価する。

(4) 実習に関する諸資料の提出について

実習に関する諸資料の提出先と提出時期は、次のとおりである。

① 実習計画書

実習校と大学指導教員：実習1週間前

② 実習日誌

大学指導教員：実習後すみやかに

③ 出席簿

大学指導教員：実習後すみやかに

(評価方法)

実習校指導教員(メンター)による成績評価と大学指導教員の評価を合わせ、最終的にはSからFの5段階で総合的に評価する。

S(90点～100点)、A(80点～89点)、B(70点～79点)、C(60点～69点)、F(59点以下)とし、SからCまでを合格、Fを不合格とする。

評価項目については、評価票 様式(4)－②を参照。

5 その他

(実習資料の様式)

(1) 実習日誌

- ・ 学校体験・基盤実習／附属学校園……………様式（１）

(2) 実習の個別計画表

- ・ 学校体験・基盤実習 実習計画書……………様式（２）－①
- ・ 学校教育実践実習 実習計画書……………様式（２）－②

(3) 実習日誌

- ・ 学校体験・基盤実習 実習日誌……………様式（３）－①
- ・ 学校教育実践実習 実習日誌……………様式（３）－②
- ・ 両実習共通 実習日誌（最終日のみ）……………様式（３）－③

(4) 実習評価票

- ・ 学校体験・基盤実習 評価票……………様式（４）－①
- ・ 学校教育実践実習 評価票……………様式（４）－②

国際貢献型留学生
学校体験・基盤実習
—附属学校園—
実 習 日 誌

大学院生	教育実践高度化専攻 コース
学籍番号	
氏名	

兵庫教育大学教職大学院

1 学校体験・基盤実習の目標

学校体験・基盤実習の目標（附属学校園）

2 実習 1：附属幼稚園の観察

学校観察実習の日程 ――実習計画表――			
月日 (曜日)	実習校園 集合時間・場所・ 配属学級	主な実習内容	準備物，持参すべき物など
月 日 ()			
月 日 ()			
月 日 ()			
月 日 ()			
備考			

実習 1：附属幼稚園の観察（第 1 日目）

(1) 実習日誌

[illegible]

実習 1：附属幼稚園の観察（第 2 日目）

(2) 実習日誌

令和 年 月 日（ 曜）			天候	
時刻	配属学級 担当教諭	幼児の活動	観察したこと	

実習 1：附属幼稚園の観察（第 3 日目）

(3) 実習日誌

令和 年 月 日（ 曜）			天候	
時刻	配属学級 担当教諭	幼児の活動	観察したこと	

実習 1：附属幼稚園の観察（第 4 日目）

（4）実習日誌

令和 年 月 日（ 曜）			天候	
時刻	配属学級 担当教諭	幼児の活動	観察したこと	

実習成果 1

附属幼稚園での観察を通して学んだこと

3 実習 2：附属小学校の観察

学校観察実習の日程 ――実習計画表――			
月日 (曜日)	実習校園 集合時間・場所・ 配属学級	主な実習内容	準備物，持参すべき物など
月 日 ()			
月 日 ()			
月 日 ()			
月 日 ()			
備考			

実習 2 : 附属小学校の観察 (第 1 日目)

(1) 実習日誌

令和 年 月 日 (曜)			天 候	
校 時	配属学級 担当教諭	教科・領域 単元・題材	観察したこと	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
学級 活動等	学校 行事・			

実習 2 : 附属小学校の観察 (第 2 日目)

(2) 実習日誌

令和 年 月 日 (曜)			天 候	
校 時	配属学級 担当教諭	教科・領域 単元・題材	観察したこと	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
学級 活動等	学校 行事・			

実習 2 : 附属小学校の観察 (第 3 日目)

(3) 実習日誌

令和 年 月 日 (曜)			天 候	
校 時	配属学級 担当教諭	教科・領域 単元・題材	観察したこと	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
学級 活動等	学校 行事・			

実習 2 : 附属小学校の観察 (第 4 日目)

(4) 実習日誌

令和 年 月 日 (曜)			天 候	
校 時	配属学級 担当教諭	教科・領域 単元・題材	観察したこと	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
学級 活動等	学校 行事・			

実習成果 2

附属小学校での観察を通して学んだこと

4 実習 3：附属中学校の観察

学校観察実習の日程 ――実習計画表――			
月日 (曜日)	実習校園 集合時間・場所・ 配属学級	主な実習内容	準備物，持参すべき物など
月 日 ()			
月 日 ()			
月 日 ()			
月 日 ()			
備考			

実習 3 : 附属中学校の観察 (第 1 日目)

(1) 実習日誌

令和 年 月 日 (曜)			天 候	
校 時	配属学級 担当教諭	教科・領域 単元・題材	観察したこと	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
学級 活動等	学校 行事・			

実習 3 : 附属中学校の観察 (第 2 日目)

(2) 実習日誌

令和 年 月 日 (曜)			天 候	
校 時	配属学級 担当教諭	教科・領域 単元・題材	観察したこと	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
学級 活動等	学校行事・			

実習 3 : 附属中学校の観察 (第 3 日目)

(3) 実習日誌

令和 年 月 日 (曜)			天 候	
校 時	配属学級 担当教諭	教科・領域 単元・題材	観察したこと	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
学級 活動等	学校行事・			

実習 3 : 附属中学校の観察 (第 4 日目)

(4) 実習日誌

令和 年 月 日 (曜)			天 候	
校 時	配属学級 担当教諭	教科・領域 単元・題材	観察したこと	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
学級 活動等	学校行事・			

実習成果 3

附属中学校での観察を通して学んだこと

学校体験・基盤実習 実習計画書

() コース

大 学 院 生	
ふりがな 氏名	学籍番号
連絡先 (TEL)	教員免許・資格等

実 習 校									
期間：	年	月	日	～	年	月	日		
学校名					住所	〒			
学校長名					電話番号				
配属学年・学級：（ ）学年（ ）組 実習校指導教員（メンター）									

学校体験・基盤実習の目標

< 備 考 >

学校教育実践実習 実習計画書

（ ）コース

大 学 院 生	
氏名 ふりがな	学籍番号
連絡先 (TEL)	教員免許・資格等

実 習 校	
期間： 年 月 日 ～ 年 月 日	
学校名	住所 〒
学校長名	電話番号
配属学年・学級：（ ）学年（ ）組 実習校指導教員（メンター）	

「課題研究科目」の研究課題と研究内容
学校教育実践実習の目標

< 備 考 >

学校体験・基盤実習 実習日誌

年 月 日 (曜日)

1. 本日の目標

2. 本日の内容

時限等	メンター等の氏名	内 容

3. 主な出来事（自らの気づき、感動したこと、疑問に思ったこと）とその省察・反省

※実習校指導教員（メンター）からの指導内容や大学指導教員の訪問指導があれば、それらについても大学院生が記録する。

学校教育実践実習 実習日誌

年 月 日 (曜日)

1. 本日の目標

2. 本日の内容

時限等	メンター等の氏名	内 容

3. 主な出来事（自らの気づき、感動したこと、疑問に思ったこと）とその省察・反省

※実習校指導教員（メンター）からの指導内容や大学指導教員の訪問指導があれば、それらについても大学院生が記録する。

4. 実習全体を通じての考察・反省

5. 実習校指導教員（メンター）による指導助言

(1) 実習校指導教員（メンター）の指導助言

実習校指導教員名

(2) 大学指導教員のコメント

大学指導教員名

学校体験・基盤実習 評価票

兵庫教育大学大学院

() コース

学籍番号 _____

氏 名 _____

太枠内のみ実習校で記載をお願いします。

	評 価 項 目	実習校指導教員	※大学指導教員
1	実習中の出席状況、態度	/ 10	/ 10
2	実習の活動状況（児童生徒理解）	/ 10	/ 10
3	実習日誌	/ 10	/ 10
4	実習校の教育活動の理解	/ 10	/ 10
5	実習目標への到達度合い ※目標に掲げたものをどれだけ実現できたか	/ 10	/ 10

年 月 日

実習校名：

実習校指導教員 _____ 印

総合評価点※

実習校校長 _____ 印

年 月 日※

大学指導教員※ _____ 印

(S : 100～90点、A : 89～80点、B : 79～70点、C : 69～60点、F : 59点以下)

※印は大学使用欄です。

学校教育実践実習 評価票

兵庫教育大学大学院

() コース

学籍番号 _____

氏 名 _____

太枠内のみ実習校で記載をお願いします。

	評 価 項 目	実習校指導教員	※大学指導教員
1	実習中の出席状況、態度	/ 10	/ 10
2	実習の活動状況（児童生徒理解）	/ 10	/ 10
3	実習日誌	/ 10	/ 10
4	実習校での教育活動への貢献	/ 10	/ 10
5	実習目標への到達度合い ※目標に掲げたものをどれだけ実現できたか	/ 10	/ 10

年 月 日

実習校名：

実習校指導教員 _____ 印

総合評価点※

実習校校長 _____ 印

年 月 日※

大学指導教員※ _____ 印

(S : 100～90点、 A : 89～80点、 B : 79～70点、 C : 69～60点、 F : 59点以下)

※印は大学使用欄です。

各コースにおけるカリキュラム配置モデル（国際貢献型留学生）

年次	科目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1 年 次	共通基礎科目 ・専門基礎科目	共通基礎科目（13単位）						共通基礎科目（5単位）						
		専門科目						専門科目						
		課題研究科目（4単位：通年）												
	現職								・実務経験3年以上の者は免除することができる。				I 集中 4W (120H)	
実習科目	ストレイト等								・実務経験3年以上の者は免除することができる。				[パターン①] I 集中 4W (120H)	
	国際貢献型					3週ずつ分けて実施（後期授業との兼ね合い）			III 集中 3W (90H)			III 集中 3W (90H)		
2 年 次	専門科目	専門科目						専門科目						
		課題研究科目（4単位：通年）												
	現職								[パターン①] II 集中 6W (180H)					
	実習科目	ストレイト等		[パターン②] II 集中 3W (90H)					[パターン②] II 集中 3W (90H)					
			[パターン②] I 集中 4W (120H)					II 集中 6W (180H)						
国際貢献型			IV 集中 4W (120H)											

- I 実習科目「学校教育基盤実習」(4単位:120時間) 週4日実習(1日7.5時間×4週)を行い、週1日(1日4時間×4週)は大学でリフレクションを行う。
- II 実習科目「教科指導力向上実習」(6単位:180時間) 2年次の実習時期は、教員採用試験を踏まえて時期の決定を行う。
- III 実習科目「学校体験・基盤実習」(6単位:180時間) 週4日実習(1日7.5時間×6週)を行い、週1日(1日4時間×6週)は大学でリフレクションを行う。
- IV 実習科目「学校教育実践実習」(4単位:120時間) 週4日実習(1日7.5時間×4週)を行い、週1日(1日4時間×4週)は大学でリフレクションを行う。